

(8) 親にメンタルヘルス問題がある子どもへのスクールソーシャルワーク実践での困難と対策
川崎医療福祉大学大学院医療福祉学研究科医療福祉学専攻修士課程 ○竹中 映理

現在、学校における子どもの問題は学校だけでなく、多岐にわたっている。そのため、学校だけでは対応困難であり、スクールソーシャルワーカー（以下、SSWr）への期待が高まっている。しかし、実際には様々な困難により、スクールソーシャルワーク実践（以下、SSW 実践）が難しいこともあるが、その中の一つに親のメンタルヘルス問題が考えられている。

以上のことを踏まえ、CiNii で検索し、先行研究レビューを行ったが、親にメンタルヘルス問題がある場合の子どもへの SSW 実践での困難と対策が明らかにされているものはなかった。そこで、本研究では、SSWr が SSW 実践を行う上での困難とその対策について明らかにすることを目的とし、特に親にメンタルヘルス問題がある場合に焦点を当てることとする。

また、本研究テーマは明らかにされていないことが多いため、探索的に分析する必要がある。そのため、SSWr の語りを基に内容分析で分析した。研究対象は、同意が得られた SSWr7名を対象とし、半

構造化面接でインタビューを実施した。

分析結果は、大きく困難と対策の2つに分かれ、それぞれにおけるカテゴリーは、困難で13個、対策で11個に整理された。この結果を踏まえると、困難については、SSWrが活動のベースとする学校には、教育という福祉とは違う文化が存在している。また、その教育という文化の影響が大きいことで、本来は子どものために協力すべきであっても、理解し合えないことが多く、協力できる関係性が築けていない。そのため、協力して支援する上での困難が多く存在していると考えられる。

他方、対策は、これらの困難に対する対策の他、困難があっても困難と捉えないように自身の気持ちをコントロールするという対策なども挙げられた。

以上のようなことが明らかになったが、本研究では限られた条件における SSWr を対象としたデータの分析であるため、一般化することは難しい。そのため、これからさらに研究を蓄積していく必要がある。